

琉球新報 & 沖縄大学共同企画

タコな支援者になれますか



—沖縄の子どもの貧困、私たちの課題—

沖縄の子どもの貧困率は 29.9%で、およそ3人に1人が貧困状態に置かれています。県は「県子どもの貧困対策計画」を実施し、支援員の配置や子どもの居場所づくり、就学援助の広報など多くの取り組みを始めています。問題への関心が高まり、各地で支援の輪が広がる一方で、問題を抱えた家庭にどう寄り添い続けるのが課題となっています。今回の沖縄大学土曜教養講座では、子どもを取り巻く貧困の現状、貧困と密接に絡む暴力の問題について、調査・支援する研究者や支援の実践者の報告・討論を通して、粘り強く寄り添い続けることの重要性和支援のあり方を探ります。

聴講料
無料
事前予約不要



2017年 6月17日 土

時間・14:00～17:00

開場時間・13:30

場所・沖縄大学アネックス共創館

※裏面に地図があります。

プログラム

13:30 開場 - おもちゃ、子ども用品大集合!

持ってきてもらったものを
子どもの福祉施設に贈ります

状態の良いものに
贈ります

子ども用バスケットリング
組み立て式サッカーゴール/卓球用品(ネット、
ラケット、ボール)/バギー/カーシートなど

14:00 開会・ご挨拶

講演

14:15 「2年で終わるはずだった、
沖縄の風俗業界で働く女性調査の5年間」
上岡陽子 氏 (琉球大学教育学部研究科教授)

講演

14:45 「私はこうしてつぶれずに続けてきました」
湯浅 誠 氏 (社会活動家/法政大学教授)

討論

15:30 「タコな支援者になれますか
—沖縄の貧困、私たちの課題—」
上岡陽子 氏 × 湯浅 誠 氏
コーディネーター
島村 聡 (沖縄大学准教授/沖縄大学地域研究所)

16:30 フロア討論

17:00 終了



上岡陽子 — (琉球大学教育学部研究科教授)
Yoko UENO

1972年沖縄県生まれ。教育学、生活指導の観点から、主に非行少女少年の保護を研究。長年、東京と沖縄で風俗産業に働く若者を調査し、貧困にある貧困問題などを研究している。2月に初の単著『探訪で選ばれる 沖縄の夜の夜の少女たち』を刊行



湯浅 誠 — (社会活動家/法政大学教授)
Makoto Ushio

1969年東京都生まれ。2008年次の年越し派遣村村長を経て、2009年から足跡は3年間、内閣府参加に就任し、内閣府副大臣の包括推進室長、震災ボランティア推進室長などを歴任し活躍。著書に『ヒーローを持っていても世界は変わらない』(朝日文庫) など多数

コーディネーター



島村 聡 — (沖縄大学人文社会学部文化社会学科准教授)
Satoshi Shimamura

那覇市役所での福祉実務経験を経て、2013年から同大で、障がい者自立支援制度や福祉コミュニティに関する調査を担い、沖縄県子どものみらい市民会議事務局長を務める